

平成 30 年 3 月 1 日

越谷保育専門学校  
校長 山崎芙美夫 様

越谷保育専門学校  
学校関係者評価委員会  
委員長 山田 陽子

## 平成 29 年度第 2 回学校関係者評価委員会報告

平成 29 年度第 2 回学校関係者評価委員会において実施した「平成 29 年度学校関係者評価(中間評価)」の評価結果について、下記のとおり報告します。

### 記

#### 1 学校関係者評価委員会委員名簿

委員長：山田陽子委員

池田 祥子	社会福祉法人 杉の子保育会理事
石田 高幸	学校法人石田学園理事長 社会福祉法人わせだ会わせだっこ中央保育園長
植竹 清文	学校法人植竹学園 認定こども園わかばの森園長
鶴見 秀海	埼玉県立越谷東高等学校長
岡 美那子	社会福祉法人 まあれ愛恵会 さいたまたいよう保育園長
中島新太郎	元 埼玉県吉川市立北谷小学校長、元吉川中央公民館長
山田 陽子	十文字学園女子大学 人間生活学部幼児教育学科長 教授

(五十音順)

#### 2 学校側事務局

山崎芙美夫	学校法人ワタナベ学園理事長兼越谷保育専門学校長
美入 昌男	越谷保育専門学校副校長
会田 秀樹	同 学科長
古塩 秀明	同 事務長
東海林 孝	同 教務部学科主任
渋谷るり子	同 教務部学科主任
菊地 秀典	同 事務長代理

### 3 委員会開催状況

- (1) 日 時 平成 29 年 11 月 27 日 (月) 午前 9 時 30 分～11 時 20 分
- (2) 会 場 越谷保育専門学校 201 教室
- (3) 参加委員 委員 5 名 (欠席：池田委員及び鶴見委員)、  
学校側事務局 5 名(欠席会田、菊地)

### 4 委員会次第

#### 開会

- (1) 校長挨拶
- (2) 授業見学
- (3) 議長選出
- (4) 報告事項 第 1 回委員会に示された意見・課題への取組・改善策等の報告
- (5) 協議事項
  - ア 授業見学の感想について
  - イ 他校との交流活動
  - ウ 就職状況と募集状況について
  - エ その他

#### 閉会

### 5 その他・事務報告

- (1) 議事録及び第 2 回学校関係者評価委員会報告書の作成と公表
- (2) 第 2 回委員会で示された意見・課題への取組・改善策の取扱い

#### 閉会

### 6 委員会議事要録

別紙のとおり

別紙

## 平成 29 年度越谷保育専門学校 第 2 回学校関係者評価議事要録

平成 29 年 11 月 27 日

### 開会

- 1 校長挨拶
- 2 授業見学 幼児の運動 A 1 A (地下リズム室)、乳児保育 A 1 B (302 教室)
- 3 議長選出 山田陽子委員
- 4 報告事項 第 1 回委員会報告と情報公開について

#### 第 1 回委員会報告に示された意見・課題への取組・改善策の報告

(学校) 資料に基づき第 1 回委員会報告された意見・課題への取組・改善策の報告。  
資料の 4 ページから具体的な報告書になっています。第 1 回の学校関係者評価報告書に基づいて簡単に報告します。

- (1) 4 ページのところでは他校との交流等、教育活動にどう取り組んでいるかということで、各校との交流を進めているところです。
- (2) 5 ページ目はキャリア教育についてです。2 年間のうちに 5 回ほど実習を行っており、実習後は面談等を行って意欲を持たせるような指導をしています。
- (3) 5 ページの学校運営については、中期計画を 3 年から 5 年取り組んでいきます。今後はハード面、施設設備の部分、教育課程や授業内容、意思決定システムについては職員の情報の共有化、週初めの月曜日の朝会、職員会議等で連絡を密にして進めます。
- (4) 6 ページは学科ごとに修業年限に応じた教育達成レベルを明確にしている。
- (5) 7 ページの授業アンケートについての提言があり、今年度の授業アンケートは無記名で 7 月に実施しました。9 月 4 日にまとめたものを講師会にて各先生方に、配布しています。無記名のアンケートについては、正直に書かれている部分があったと思います。

さらに今年度、公開授業週間を本日から始めました。今後もさらに進めます。  
以上が前回のまとめと取組状況の報告になります。

## 5 協議事項

### (1) 授業見学の感想について

- (学校) 本日は授業を見学していただきました。先生方の意見を聞きたいと思います。授業アンケートのやりかたですとか、参観しての意見、感想もお願いします。
- (委員) 静かに聞いていた印象で、教科書もわかりやすかったので、学生もわかりやすいと思った。ただ動く映像のほうがわかりやすかったと思った。
- (学校) 教科書の傾向としてはカラー化や画像が多くなっている。
- (委員) 積極的に参加している様子が見られ、学生の質が高いのが見られた。壁面では四季を折り紙で表現していて、実践に活かされますし、折り紙が苦手な学生も就職に向けて楽しく意欲的に授業に参加している。掲示物を見ても、素晴らしい。
- (委員) 学生が落ち着いて学んでいる。学生が一生懸命取り組んでいる様子が見られた。埼玉県の小・中学校を中心にアクティブラーニングに取り組んでいる。乳児保育の授業ではわかりやすい教科書だったが、人形を用意したり、ビデオを用意したり、学生と積極的に自分から進んで学ぶような姿勢を活かして取り組んでいければさらに良い授業ができるのではないかと。例えばアンケートの話ですが、アンケートを基に学生と先生方が4か月に1回や半年に1回話し合っただけで自分たちで授業をつくっていく体制というものが出来上がっていくとさらに学生が自分の授業だという意識が芽生えると思う。参観してみて学生は一生懸命取り組んでいるが、まだ受け身の学習、もう一歩前向きな自分から進んで学ぶ姿勢の学習にまでいければ、さらに内容も深まってくると感じた。
- (学校) 視覚的なテキストを読む授業だけではなく、動画や人形をもっと活用する。今日の授業でいえば人形を持っていくだけで興味関心が高まる。学校としてはお知らせしているが教材の活用を講師の先生に周知していきたい。学生と話し合っただけでつくりあげていく授業ですが、自分の授業に置き換えるとどういう形ができるのかなと考えてみると、方向性を導きながら子どもたちに教える立場になる学生なので、教える立場だったらどういう表現をしますか、言葉がけをしますか、見本を見せますかというような自分たちで考えてみましょうという取り組みを取り入れていきたいと考えている。
- (委員) 人形やビデオを活用するのが意味のあることだと思うが、もしかすると今後の授業で使おうと思っているかもしれない。場合によっては人形やビデオを使うことで学生の集中力が途切れるかもしれない。まずは学生に話を聞いてもらい理解してもらってから次に向かうということがあるかもしれません。そういうことも含めて先生方にお伝えいただければと思います。
- 一つの提案になりますが、授業を見学させていただくときには授業計画のどこに位置するということは分かった。この授業の中で学生に一番理解を深めさせたいことですか、授業内容について資料をいただけるともっと先生の思いをくみながらできるのではないかと。
- (学校) 空き時間を利用して授業を見るようにしている。今日参観していただいた授業も2、3週間前くらいに見たときは学生が前に出て発表して、対話形式で授業を行っていた。今日だけの授業を見ると講義形式でどうなのかと思う面もあるが、アクティブラーニングや対話形式などを授業の中で3分の1くらい入れていただければ、学生も積極的になってくるのではないかと。私が授業を見るときに注意して

いることは教員の動きですが、黒板の前からどれくらい動いたかを見ている。教員の動きの少ない授業はあまり活発にならない。そういうことを研究していかないといい方向にいかない。

(委員) 学生が落ちついていい授業だったが、小・中学校でも自ら学んでいく授業がこれからの方向性として出ている。前向きに取り組んでいただきたい

## (2) 基準3 他校との交流活動

(委員) 4ページにある彰栄保育福祉専門学校、道灌山学園保育福祉専門学校と交流があるということだが、専門学校はどういう状況になっているのか。

6ページの募集費の増減についても聞きたい。

(学校) 交流については、募集担当が各養成校と連絡をとっている。また、来週になりますが、校長・副校長の二名で道灌山学園保育福祉専門学校に行く予定になっている。再課程認定に向けての取り組みや他校の状況を模索しながら共存共栄でいかなければ厳しい状況になる。

(学校) 彰栄保育福祉専門学校には元職員がいるので懇意にさせていただいている。道灌山学園保育福祉専門学校は全幼教の中でもトップクラスである。どういう意味のトップクラスなのか見に行ったが、学生の落ち着きはもちろん、いろいろな取組をしている。これから専門職大学を含めてどうするのか、中身を充実させていくのか。そういう話をさせていただいた。彰栄保育福祉専門学校、道灌山学園保育福祉専門学校、竹早教員保育士養成所などと繋がりがあ

る。昨年は募集担当のほうでセッティングし、各校の募集担当職員が本校に来て、近隣の高校生を集めて募集活動を行った。今まで繋がりがなかったのだが、今後、共存共栄で学生募集を行っていく。さらに深めてまいりたい。

どんなことが出来るのか、例えば教員の交流や学生の交流、行事の交流などが考えられるが、今後進めたい。

(学校) 学校での取り組みを紹介しますと、受講のマナーを設け、授業の挨拶や身だしなみ、私語、携帯電話、飲食等をしないなど当たりまえのことだが掲示している。服装等もサンダル等についての掲示や指導をしている。まだ十分ではないこともあるが、先生方でお気づきの点がありましたらお願いしたい。遅刻早退欠席についてきちんと時間を守って指導している。

(委員) 地下で行っていた授業が楽しい雰囲気良かった。

(学校) 1クラスを半分に分けて授業しており、本日は15名ほどで行った。

(学校) 最近、ある短大の幼児教育の募集がうまくいっていないという情報を耳にした。友人がその短大に行き、本人は本校に来た。評判があまりよくない理由としては登下校中の学生の服装や髪型だった。それを聞いたときに原点に戻らないとダメだなと思い、生活習慣についての指導を強めることにした。豊かな人間性を身につけたうえで免許や資格をとってほしい。外部からの評価が落ちた時にはあつという間に募集がうまくいかなくなると実感した。

(委員) 挨拶は学生がしているつもりでも声が小さいと実習先保育園等で挨拶が出来ていないと言われることがある。学生を実習に送り出すときには、あなたたちが一番出来ることは、誠実に取り組むことだと伝えている。それは誰でもやろうと思えばできることで、そこに技術が乗っかってくる。

幼児教育は子どもの心を育てる仕事です。豊かな人間性を持った学生が卒業して保育にあたるのが大きな願いです。その気になれば、どの学生も出来る。豊かな人間性を備えた保育者の育成が教育の一番の核にしていかなければならない。

(委員) やっているつもりというのは基本的に挨拶です。私は常に知らない人こそ挨拶しなさいと言っている。挨拶の重要性を教えないといけない。

(委員) 当たり前前の方が当たり前前できないと学生が就職した時に困る。保育士の仲間や保護者からも信頼されない。実習に来る学生の様子を見てメンタルの強さで声掛けを変えている。保育技術より人間性の部分がしっかりついたうえで学生が生活できたらいいのかなと指導するうえで気をつけている。

服装や授業態度などの基本的なことを指導していくのはいいことだと思う。

それによって学生の受ける気持ちや姿勢が変われば講師の方にもよりしっかり聞いていることが伝わり、熱心に授業をすすめてくれて良い循環になるのではないか。講師の先生が自分の授業のやりかたを学校とすり合わせるの難しいと思う。例えば先生によって人形を使ったり実践で手遊びをやってみたり先生によっては黒板に書くだけの人もいるかもしれないので、授業風景をビデオにとって他の先生に見てもらうなど、良いところを見て刺激を受け、学生にとっても聞きやすい授業になり、他のやり方も学んでいくと思われる。実施するうえで、学校での準備が必要になるが、先生の意識を高めるうえで必要だと思った。

(学校) 学校では年2回の講師会を実施している。専任講師、非常勤講師合わせて40名ほどいるので、その時に授業アンケートの結果をお返ししている。今年のご提言いただいたとおり無記名で実施したことで、かなり厳しい意見や学生の自分勝手な意見もあった。

(委員) ドレスコードの写真について、大学では貼ってあるのか。

(委員) 他の大学では分からないが、うちの大学では実施していない。

(委員) 入学式等の説明会で配布しているのか。

(学校) 学生便覧等で説明をしているが、文章で説明してもイメージできないので視覚的に訴えるほうがいい。

(委員) 学生に主体的に考えて、授業を受け、自分の生活も自分で考えてつくる動き、実際に提示したほうが学生により入っていくと思われる。きっとバランスだと思う。高等教育の現場はそこで揺れている。自分で判断できる社会人であってほしいという願いを持ちながら、どこまで踏み込んだ教育をするのか悩むところではないかと思う。今、どういう学生像を目指していくのかが問われている。

### (3) 就職状況、募集状況について

- (学校) 就職状況ですが、2年生は82名おり、そのうち4名ほど留年が決まっています。78名になる。保育園に24名の内定、幼稚園に3名、認定こども園に4名、施設に1名、学童・児童館に1名の計33名内定している。
- 募集状況ですが、AO入試24名、指定校推薦入試33名、推薦4名、計61名の入学予定者という状況。2018年問題で高卒の人数が20万人ほど減少する。今後ますます募集が厳しくなる。一方、待機児童の問題や給与改善等が進んでいるプラス面もある。本校では委託訓練制度としてハローワークを通して訓練生を受け入れている。来年は30名の募集を予定しており、今後もAO入試や一般入試があるので80名～90名の入学生を想定している。厳しい状況にはあるが、今後も、学生確保につとめてたい。
- (学校) 募集状況ですが、18歳人口が5年で20万人減少していく中で、今後3分の1くらい専門学校が廃校となる。大学短大も同様であり、しっかりとした確固たる募集をしなければならない。今年の募集状況だと4月の入学生が90名くらい確保できそうである。100名定員ではあるが、どこも厳しい中でどうにか昨年よりは増えそうである。近隣の短大や大学等も苦戦している。
- 今後も、生活指導も含めてしっかりと学生募集を進めたい。
- (委員) 受験生が減ってきている状況だが、増やしていかなければならない。学生は、単位を取得すればいいという考えで入学してくる。学校側も単位を取得すればそれでいいという考えで卒業させていると感じた。いろいろな学校を見たが、子どもが通いたい学校、親が通わせたい学校を目指しているところがあった。学生にとって通いたい、学びたい学校を目指す。いろいろなやり方があり、この話は小・中学校で指導を行ってやっていることで、専門学校に通じるかわからないが、取り組んでいる学校もあったのでご紹介した。
- (学校) 学校側は学生の2年後のイメージを持って送り出すかどうか。イメージ像を描いて日々の教育活動を行う。より具体的なものにしていかないとけない。
- (委員) 委託生が30名予定ですが、一般入学生が例えば100名来た場合はどうなるのか。
- (学校) 委託生はお断りとなる。委託生の募集を行っているところはあまり募集がうまくいっていないと思われる。個人的にはとりたくないと考えている。来年度何名委託生の希望調査がくるが、ある専門学校では30名を希望していたが20名に減らされている。いつまで続くかわからない制度である。
- (委員) 募集費に関してですが、無駄なところを削って募集にかけないと学生が減ってくる中で、学校が頭に浮かんでこないと他の学校に行ってしまうのではないか。
- (学校) 専門学校単体でやる募集関係にける予算は減ってきている。より効果的なインターネット等に集中するなどを行い、全体の予算は減っている。ワタナベ学園全体の広告は学園本部から出している。幅広く出しているが全体としてはそんなに増えていない。
- (委員) 収入に対して募集経費の割合が増えているのか。
- (学校) 同じくらいではないか。要望のあったものはなるべく通すようにしている。しかし、募集の予算が決まっているのでその範囲内でやらざるを得ない。
- (委員) いろいろな媒体を見たときに載っているのと載っていないのとでは全然違う。

(学校) 例えば三郷市の体育協会、吉川市の教育委員会と連携をとったり、剣道の関東大会、ラグビーの全国大会等に協賛を協力したり、なるべく幅広くやりたいと考えている。12月にはサンデー毎日にA4の半分の大きさで全国版に出す。今後は、幅広く宣伝をしようと思っている。

(委員) 求人園数と内定者数の今の時点ではよく分かるが、学生総数が出てきていないので、学生総数の中で専門職を希望している学生数や一般職その他を希望している学生がいると思うので、その内訳を書いていただきたい。  
また、昨年度の実績がわかると比較できるので今後お願いしたい。

#### (4) その他

(学校) 施設設備について来年2月に耐震工事が入る。校舎内内部についても3年から5年かけて、見栄えよくしていく計画を進めている。  
移転については今のところない。  
耐震工事に絡めてピアノレッスン室も全面改装と考えている。

#### 5 その他・事務連絡

- (1) 議事録及び第2回学校関係者評価委員会報告書の作成と公表  
事務局で作成し、第1回同様ホームページに掲載する。
- (2) 第2回委員会で示された意見・課題への取組・改善策の取扱い

閉会

以上